



家庭学習を考える

携帯電話やゲームが広く普及するなど、子どもを取り巻く環境は、大きく変化しています。親の世代が子どものときになかった機器が、家庭での学習時間に影響を与えていることは間違いありません。

現在の小・中学生の家庭学習事情とは。保護者の皆さんに、家庭学習について感じていることや考えていること、実践していることを、学校の先生を交えて語ってもらいました。



家庭学習の習慣付けには、親と一緒にきつかけづくりをするのがよいのではないのでしょうか。
江森正行さん(中学校保護者)

★子は親を見て育つ★

司会 子供たちの家庭学習について、普段どのように感じていますか。

増田 子供たちには、時間を有効に使って、家庭学習の時間を確保させてい주세요。

江森 家庭学習の習慣付けは、ひたむきに毎日、真剣に取り組むことが大事。親と一緒にきつかけづくりをするのがよいのではないかと思います。

島野 苦手なもので地道にやり遂げることで力になりますよね。

遠藤 私は物事に興味を持たせるために、子どもをプラネタリウムや博物館などに連れて行き、学習に関心が向くようにしました。

江森 さまざまなことに興味を持ち、何のために勉強するのか、目的意識があれば一生懸命勉強できますよね。

子どもが自然と学習に関心が向くように、さまざまなことに関心を持たせてあげました。

遠藤峰子さん(小学校保護者)



山本 小学校では、家庭学習をやったこない子と先生の根比べです。先生は家庭学習をさせる工夫をしていますよ。

柳原 家庭学習の習慣は中学校入学の時点で二極化しています。小学校低学年のうちから習慣付けをすることが絶対に必要です。

江森 なぜ子どもが勉強しないのか。この学力向上推進委員会に参加して、親がそういうふうにならなかつたと思います。「子は親を見て育つ」を実感しました。

★子どもに「ペンだこ」

ありますか★

司会 家庭学習をやる子どもとやらない子どもの二極化が話題になっていますが、どのように感じますか。

島野 忙しい子どもは家庭学習がで



山本信男さん（南河原小学校教頭）
学校と家庭が協力して、本気で子供たちに学力を付けることを考えたい。

きかないかというところではなく、けじめが付けられているか、時間の使い方が有効かに関わると思います。
遠藤 部活動との両立が難しいという話も聞きますが。
柳原 入学したばかりの中学1年生はかなり疲れています。慣れれば時間は確保できます。
島野 以前の家庭学習は書くことが多かったと思いますが、最近は書くことが減ったと感じています。
山本 書いて覚える、声に出して覚えるというのとはとても有効ですよ。
遠藤 自分が子どものころ、新聞のコラムを何文字以内にとめるという宿題があり、大変だったけれど、それがとても印象に残っています。
柳原 私は最近の子供たちにペンがないのが気になります。
島野 同感です。私も家庭学習では書

くことを中心にやらせたいと思います。
遠藤 1日1ページでもしつかりやれば効果が出ますよね。
柳原 昔の頑固おやじ、それくらいは気持ちで親も覚悟を決めましょう。家庭学習を習慣付けするには、親の強い意志も必要です。
増田 書くことが減るとともに、子供たちが自分の力で考えることが減っていると感じます。
江森 考える力が未熟で、ほかの考えに活用できないという話も聞きますね。
柳原 高校入試も問題の傾向が変わり、単なる〇×ではなく、読み取ることができないと答えにたどり着けなくなっています。今、求められている学力は、いかに自分の言葉で表現できるか。まずは、勉強する習慣づくりから始め、実力を付けていかなければなりません。

柳原功さん（忍中学校校長）



家庭学習を習慣化するためには、親の強い意志も必要です。



苦手なことでも、地道にやり遂げることで力になると考えています。
島野幸江さん（中学校保護者）

★「家庭学習のすすめ」の
ススメ★

司会 学力向上のために必要なことは、何だと思えますか。
江森 学力向上と日常の生活習慣は、やはり切り離すことができないですね。
山本 埼玉県調査からも読書をよくなる子どもは、学力が高いという結果が出ています。
柳原 子どもに目を向け、ちよつとした工夫で家庭学習はできるようにになります。
島野 自分の子どものころと比べて、今の子どもは受け身であると感じています。自主学習というからには、自分で課題を見つけられるまで高めるのが理想だと思っております。
増田 親は子どもに社会性を身に付けさせるために、勉強が将来どのような

に役立つのかを教える役目があると思います。
江森 親が学校とのつながりを持ち関心を持つことで、子どもも変わると思います。
島野 十分でなくてもいいから、いつも子どもに関わっていくことを忘れないうことが大切です。
山本 学校と家庭が協力して、本気で子どもに学力を付けることを常に考えたいと思います。
柳原 親が真剣に子どもに関わるきっかけづくりとして、この「家庭学習のすすめ」が糸口になればと考えます。
島野 「何をやったらよいか分からないから、家庭学習ができない」という子どものために、そして、どうアドバイスしたらよいか分からない親のために「家庭学習のすすめ」をぜひ勧めたいです。

親には、「勉強が将来どのような役に立つか」を教える役目があると思います。

増田雅久さん（小学校保護者）

